

平成 25 年 2 月 25 日  
九州電力株式会社

## 大岳発電所の更新並びにそれに伴う環境影響評価方法書の届出・送付等について

大分県玖珠郡九重町の大岳発電所（定格出力 1 万 2,500kW）は、昭和 42 年に国内初の事業用地熱発電所として営業運転を開始し、安定的に運転を継続しながら 45 年を経過しております。

今回、発電設備の老朽化の状況を踏まえ、今後も継続して国産エネルギーとしての地熱資源の有効活用を行うため、発電設備の更新を実施いたします。

更新に当たり、生産井及び還元井は現状の設備を継続的に使用することとし、地元の皆さまのご協力のもと、引続き貴重な地熱資源を活用してまいります。

それに伴い、本日、環境影響評価法及び電気事業法に基づき、「大岳発電所更新計画 環境影響評価方法書」（以下、方法書）及びこれを要約した書類（以下、要約書）を経済産業大臣に届け出るとともに、大分県知事、九重町長に送付いたしました。

届出・送付した方法書及び要約書につきましては、環境影響評価法に基づき、縦覧するとともに、方法書説明会を開催することとしています。

以 上

（添付資料）

別添 1 大岳発電所の更新概要について

別添 2 大岳発電所更新計画に係る環境影響評価方法書の公告・縦覧・説明会について